

# らいぶスクエア

## 日本の伝統文化を学び、日本人の心を育む

道徳科

3年C組担任

武友 多佳子



### \*はじめに

10月27日の研究会で、道徳の授業を公開しました。

「にんじんのかざり切り」という教材を使って、伝統と文化の尊重について学びました。そのためのしかけとして、色々取り組みをしましたので、それをいくつか紹介します。

特別の教科 道徳と関連付けて、総合的な学習の時間に、百人一首や俳句の世界を楽しみ、季節の行事食や、和歌山の郷土食の学習を続けています。

### \*百人一首の世界へ

本校校長は和歌山大学教育学部の被服専門の教授であるため、百人一首の世界にふれるために、当時の衣服についてお話していただきました。

子どもは、「私も昔の着物を着てみたいと思いました。校長先生の着物の姿を見てきれいだと思いました。そして歴史もわかりました。」と記していました。

### \*行事食を味わう

俳句で、季語を学んでいく中で、伝統行事や行事食についても、興味をもつようになりました。夏の和菓子である「鮎」や、紀北～奈良県にかけての郷土食である「柿の葉寿司」を試食してみました。初めて食べた子も多かったのですが、「こんなにおいしいとは知らなかった。」「いろいろなお店のものを食べ比べてみた。」という声が出ました。

教材に出てくる和食へと興味を広げたくて、夏休みに、農林水産省の「和食王」のお絵かき部門にも参加・出品しました。そんな中で、2学期に、簡単な和食の調理実習を行いました。「結びこんにやく」と「菊の酢の物」を味わいました。「結びこんにやく」は、ひと手間加えることで、見た目もおいしさも変わることで、そして、縁結びの意味があることを学びました。その折に本校栄養教諭にかつおぶしの出汁も体験させていただきました。「菊の酢の物」は、「重陽の節句」と合わせて味わいました。食用菊は、おいしいと喜んでいる子と、おいしくないという子の両極端に分かれました。保護者の方が届けてくださった「菊茶」と一緒にいただきましたが、菊茶は、「紅茶に似た味がする。」と喜んで飲んでいました。

### \*授業後の取り組み

公開授業が終わっても、取り組みを続けています。

和歌山大学教育学部教授で、本校元校長の菊川恵三先生にお願いして、菊川ゼミの学生から百人一首のカルタ作りの授業を受けました。世界に一つしかないカルタを作り、子ども達は大喜びでした。カルタ取りも随分白熱しました。「百人一首があまり好きではなかったけど、面白くてよかったです。」という声も出ました。

師走には、栄養教諭から、おせち料理や七草がゆについて学びました。食べてみたいおせちを聞くと「長生きしたいから、エビをたべたい。」「だてまきを食べて、頭がよくなりたいたい。」「れんこんを食べて、先が見えるようになって、テストでいい点を取りたい。」というほほえましい声が聞かれました。

3月の学年終了まで、日本の伝統文化や行事、それに合わせての行事食、郷土食などについて学び、日本人の「おもてなしの心」から、他人を思いやる心を育てていきたいと考えています。